

## \* 縄文人の心 \*

人びとは、自分を犠牲にしてまで救ってくれたどぐうちゃんに感謝し、食べ物を与えてくれる森にも感謝したことでしょう。また、縄文土器にどぐうちゃんの模様を付けることで感謝の気持ちを表したかもしれません。そして、どぐうちゃんがしてくれたことを忘れないために、その物語を子どもや孫たちに語り伝えたことでしょう。

これはひとつの例ですが、このような物語が様々なところで語り継がれるうちに、縄文人の中に、森に感謝し文化を大切にする心が育まれていったと考えられます。「じょうもん人からのメッセージ」は、森や文化を大切にする縄文人の心の原点ともいえます。

それでは、縄文人が大切にしていた森や文化はどのようなものだったのでしょうか？

## \* 小関里歩さんインタビュー \*

Q：どの土器を参考にしてイラストを描いたのですか？

A：土器は山梨県立考古博物館に展示している殿林遺跡の土器を見て、どぐうちゃんは釈迦堂遺跡博物館に展示している土偶を参考にして描きました。



小関里歩さん

Q：その土器を見て、どう思いましたか？

A：私も土器作りをしたことがあります。粘土を細くするとすぐにヒビが入って作るのが大変です。殿林遺跡の土器の粘土は細くてなめらかなので、上手に作っているなぁと感心しました。

Q：どのようにして、どぐうちゃんが土の人形になり、割られてかけらにされることを思いついたのですか？

A：釈迦堂遺跡博物館で、縄文人は土偶を割って大切に埋めていたことを教えてもらっていたので、それを参考にしました。私は土偶が好きで、特に釈迦堂遺跡のもの好きなので、土偶を主人公にした物語を考えました。



参考にした土偶  
釈迦堂遺跡(笛吹市・甲州市)

Q：なぜ、どぐうちゃんは自分の身を犠牲にしてまで、人間たちを助けたのでしょうか？

A：どぐうちゃんが優しいからです。人びとが困っているのをほっとけなかつたと思います。

Q：食べ物に困らなくなった人間たちは、その後どうしたと思いますか？

A：毎年毎年どぐうちゃんをまつのお祭りをしたり、他に困ったことがあった時に土偶にお祈りをしたりしたと思います。

Q：イラストはどの場面を描いたのですか？

A：木の実をゆでようとしている場面です。



参考にした土器  
殿林遺跡(甲州市)

Q：縄文時代をイメージすると、どのようなものですか？

A：今より物が少ないので物を大切に使い、みんなで助け合い、仲良く暮らしていたと思います。

Q：縄文時代に行ってみたいですか？行ったとしたら何をしたいですか？

A：行ってみたい。行ったら縄文人と一緒に土器を作りたい。でも冬は寒そうですね。

この小関さんの物語は、平成20年7月～11月に行われた、「伝えて！じょうもん人からのメッセージ イラストコンテスト」において、小学5～6年生の部で最優秀賞に輝きました。

イラストはオリジナルスタンプになり、「縄文王国山梨」の7館で押すことができます。

イラストコンテスト1～4年生の部 最優秀賞



廣瀬克己さん(一宮西小学校4年生)